

巻頭言

病院長 清島 満

高山赤十字病院紀要44号をお届けします。

2022年11月に当院は創立100周年の大きな節目を迎えます。1922年（大正11年）11月に当時の大野郡病院が日本赤十字社に移管されて高山赤十字病院が設立されました。1世紀もの長い間当院がこの飛騨地域において最後の砦としての任務を担ってきたことを考えますと先人たちのご苦勞が偲ばれます。また同時に、かくも長い間地域住民の方々からの厚い信頼に支えてもらっていたことに感謝を申し上げます。記念行事としては2022年の秋に式典を計画しており、100周年記念誌の発刊も予定しています。なお、市民参加のイベントは2023年開催の予定です。

さて新型コロナウイルスですが、2020年に入って早々にpandemicとなったこのウイルスは日本にも襲来し、その年の秋には飛騨圏域で第1例目が報告されました。当院は三次救急を担いながらも建物の老朽化が著しく、救急外来患者とCOVID疑いの患者（いわゆる発熱外来患者）の動線が一部重なっており、常に院内クラスター化の危険と隣り合わせの毎日が続いていました。そのため早急に救急外来入口に隣接して発熱外来用のプレハブ診察室を設置し、病棟内には空気感染隔離ユニットを設置して専用病床を確保しました。2021年に入ってから日本は第3、4、5波と文字通りの波状攻撃を受け、特に8月末の第5波のピーク時には飛騨圏域においても医療機関の専用病床はかなり逼迫しました。しかし専用ホテルの活用で何とか自宅療養者を出すことなく収束に向かいました。今後どのくらいこのウイルスとの戦いが続くのか分かりませんが、日常生活においてはこれまでと同様にマスク、手洗い消毒などの基本的な感染防御対策が必要でしょう。

最後に本紀要は1977年（昭和52年）5月に第1号が時光直樹元病院長時代に創刊されて以来毎年発刊してきましたが、今回は事情により2年分の合併号となりましたことをお断わりしておきます。

